

# 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」の伴走支援について

令和6年7月5日（金）



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

# 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」伴走支援の基本的な考え方

## （目的）

本事業（J-PEAKS）においては、採択大学が自ら設定した大学ビジョン（以下「ビジョン」という。）の実現に向けて自らの責任で取組を進めることを原則として、伴走支援では、採択大学が、設定したアウトプット・アウトカム指標達成のために効果的に取組を進められるよう、必要な助言・提案等を行うことを目的とする。

## （体制）

伴走支援を行うため、日本学術振興会に伴走チームを置く。

## （取組）

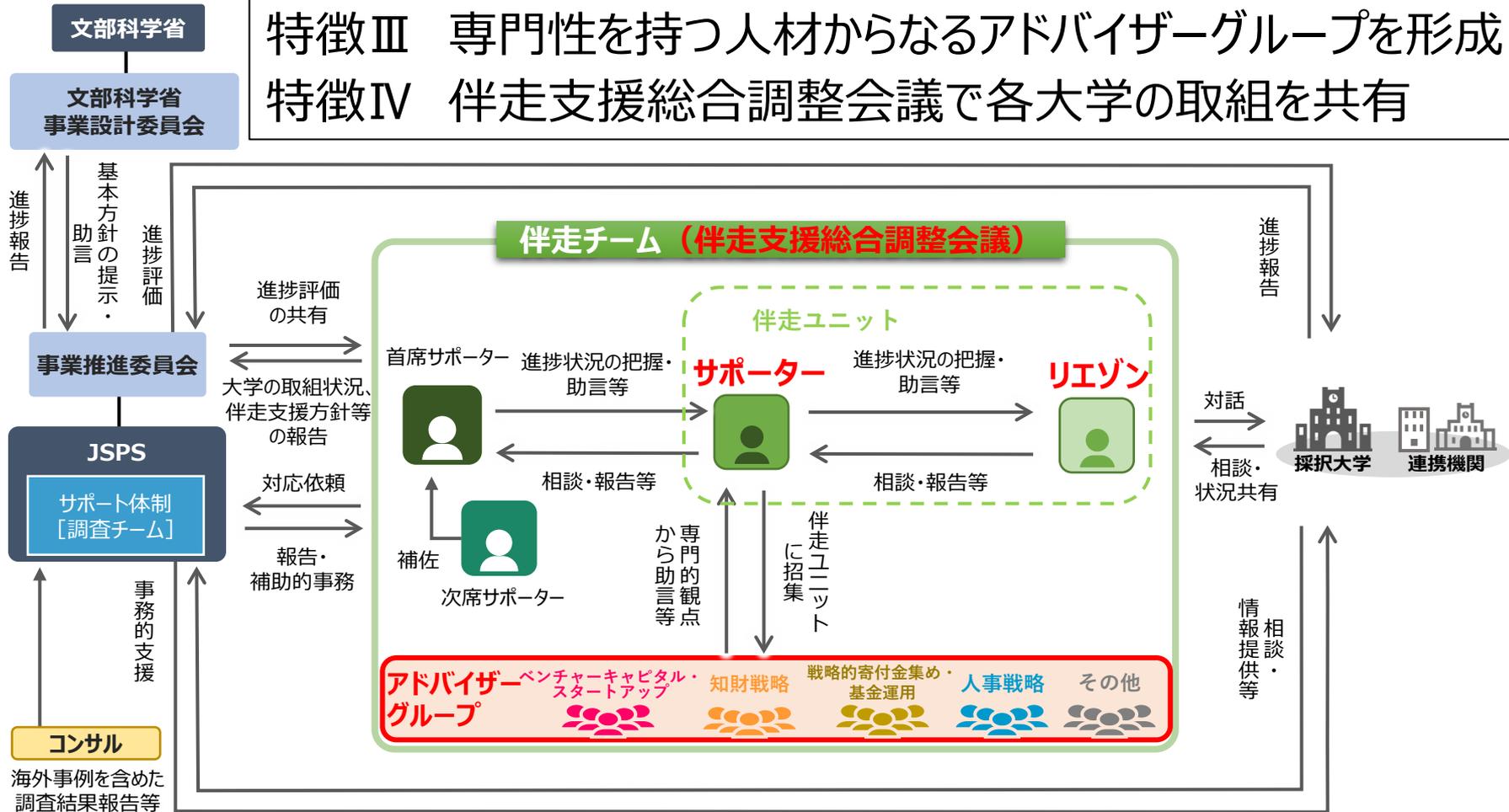
上記の目的を達成するため、伴走チームは以下の取組を行う。

- ① 大学の状況把握・可視化 大学の認識と伴走チームの認識を一致させ、関係者が同じ土俵でビジョン実現に向けた対話ができるように環境を整える。
  - ・大学による主体的な取組を支援することを原則とし、ビジョンの見直しを要求したり、取組を指示したりはせず、大学側に気づきが生まれることを期待して対話を行う。
- ② 大学間の連携促進 採択大学間の連携を促し、共通する課題に対する好事例・ノウハウの共有等を推進する。
  - ・情報共有による個別大学の発展だけでなく、研究大学全体の発展に資するうねりが生まれることを誘導する。
- ③ 大学への助言・提案 大学においてビジョンの実現のために必要と判断した具体的な取組に対して、実効性を高める観点から専門的知見に基づく助言等を行う。
  - ・大学の責任で行う具体的な取組の質を高めるための助言・提案等であり、自らの責任で行う取組の代行は行わない。5年間の支援期間中に専門的知見についても大学に根付くように促す。
- ④ 評価を踏まえた改善の支援 事業推進委員会から指摘された改善事項に対する大学における具体的な改善を促す。
  - ・一方的に改善を要求するのではなく、どうすればより良い改善が図られるかをともに考え、具体化を促す。

1. 採択大学自らの責任で取組を進めることが原則
2. 採択大学に必要な助言・提案等を実施
3. 共通指標を通じたビジョンの意識合わせ

# 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」伴走支援の運営体制イメージ

- 特徴Ⅰ リエゾン（全12名）は各採択大学から選任
- 特徴Ⅱ 1 サポーター（全6名）が基本的に2大学を担当
- 特徴Ⅲ 専門性を持つ人材からなるアドバイザーグループを形成
- 特徴Ⅳ 伴走支援総合調整会議で各大学の取組を共有



1. 共通指標を用いた、大学と伴走チームの認識の共有と対話
2. 大学間のノウハウの共有と連携の促進
3. アドバイザーグループ等を通じた大学への助言・提案
4. 事業推進委員会の指摘等に対する改善の支援

採択大学へ機能①～③について共通指標区分を提示しています。

機能①に関する指標区分

**研究成果に関する指標**

**外部からの資金獲得に関する指標**

機能②に関する指標区分

**新しい価値の創造に関する指標**

**社会実装に関する指標**

**国際的な活動に関する指標**

機能③に関する指標区分

**地域課題解決に向けた取組に関する指標**

**経済効果に関する指標**

✓ 伴走チームとの対話に向けた意識合わせ

✓ アウトプット・アウトカム指標の見直し

✓ 研究大学群の形成に向けた進捗管理や分析等